

【都道府県用中間報告書様式】

都道府県番号	16
都道府県名	富山県

【都道府県教育委員会における学力向上フロンティア事業の取組】

I. 学力向上推進地域名及び学校数、学力向上フロンティアスクール数

学力向上推進地域名	小学校 (うちフロンティアスクール)	中学校 (うちフロンティアスクール)	計 (うちフロンティアスクール)
富山県学力向上推進地域	219校 (23校)	85校 (13校)	304校 (36校)

II. 学力向上推進協議会(地区協議会)の設置数及び域内の学校数

地区協議会名	小学校 (うちフロンティアスクール数)	中学校 (うちフロンティアスクール数)	計 (うちフロンティアスクール数)
魚津地区協議会 (黒部市、魚津市、宇奈月町 朝日町、入善町)	37校 (4校)	10校 (2校)	47校 (6校)
富山地区協議会 (滑川市、富山市、大沢野町 大山町、上市町、立山町、 舟橋村、婦中町、八尾町 山田村、細入村)	93校 (9校)	33校 (5校)	126校 (14校)
高岡地区協議会 (新湊市、高岡市、氷見市、 小杉町、大門町、大島町 下村)	63校 (6校)	24校 (4校)	87校 (10校)
砺波地区協議会 (小矢部市、砺波市、福光町 福岡町、井波町、庄川町 井口村、利賀村、城端町 平村、上平村、福野町)	26校 (4校)	18校 (2校)	44校 (6校)

Ⅲ. 都道府県教育委員会としての支援策

(1) 地区別協議会に対して

地区別協議会の事務局を担当する指導主事との会合（ワーキンググループ）において、県教育委員会としての学力向上フロンティア事業のすすめ方の共通理解、各フロンティアスクールの取組み及び各地区の取組みの情報交換等を行ない、地区別協議会が機能するよう支援を行った。

(2) 域内の各小・中学校に対して(含:フロンティアスクール)

県教育委員会の「平成15年度幼・小・中学校教育指導の重点」において、新たに学力向上フロンティア事業の成果等を紹介するページを設け、成果の普及を図った。

- ・ 事業推進に当たっての本県の基本的な考え方
- ・ 取組みから明らかになったことや事例の紹介

調査報告書『効果的な少人数授業の在り方』を刊行する。(県総合教育センター)小学校理科、中学校英語における個に応じたきめ細かな指導の在り方などについて研究を行い、その成果等を紹介する。

学力向上フロンティアスクールには、学習内容の定着を図るための方法の紹介、研究の進め方の相談を行うため、担当指導主事による学校訪問(ぶらっと訪問)を適宜行った。学校の悩みを聞いたり、研究の方向性を知ったりすることは、事業の推進の上で大変有効であった。

情報の提供

- ・ 学習内容の定着(成果)を数値的に示すための方法の紹介
(例:t検定の紹介)
- ・ 豊かな教材の作成のための方法の紹介
(例:複数の教科書の比較による教材研究)

(3) 実践研究の成果の普及の方策の構築

学力向上フロンティアスクールの実践研修をまとめた『確かな学力の向上』を目指して(仮題)を県下小・中学校及び高等学校、特殊教育諸学校等に配布するとともに、学校教育課のホームページに掲載する。

研究成果の普及については、最終年度に「発表会」として普及を図るのではなく、公開授業、共同での教材開発、インターネット、学校だより等、日常的な取組みを積極的に公開・広報することで行うよう指導助言に努めた。

Ⅳ. 学力把握のための都道府県としての取組について

1 県としては実施していないが、小学校、中学校ともに、小学校教育研究会、中学校教育研究会が実施している。

小学校

- ・ 小学校3年生以上の全児童を対象に年1回、3年生は国語、算数、4年生以上は国語、社会、算数、理科の学力調査を実施している。

中学校

- ・ 全中学生を対象に4月と11月の年2回、国語、社会、数学、理科、英語(1年生の4月は未実施)の学力調査を実施している。

また、県教育委員会としては、平成12年度から、基礎的・基本的内容について過去と同じ問題を出題するとともに、その正答率等の比較・分析を依頼し、学習状況の把握と改善に努めている。今後、両教育研究会相互の連携を一層強め、小中学校9年間を見通した学力の向上を図る方法についても働きかけていきたい。

2 すべてのフロンティアスクールを対象に学習に対する意識調査を実施した。

V. 学力向上推進協議会について

(1) 開催時期及び参加対象

- | | | |
|-----|---------------|--|
| 第1回 | 平成15年11月6日(水) | 学識経験者、保護者、小学校教育研究会、中学校教育研究会、県総合教育センター、教育事務所、フロンティアスクール |
| 第2回 | 平成16年2月25日(火) | 学識経験者、保護者、小学校教育研究会、中学校教育研究会、県総合教育センター、教育事務所、フロンティアスクール |

(2) 協議会の主な内容等

- | | | | | | |
|--------------------|-------------|--|--------------------|----------------|---------------|
| 第1回 | (主な報告・協議事項) | <ul style="list-style-type: none">・ 事業の推進に関する県の基本的な考え方・ フロンティアスクールにおける取組み状況・ 成果の普及の仕方・ 事業の推進 (主な協議内容) <ul style="list-style-type: none">・ 成果等の発信は、まとめとか成果を知らせるのではなく、自校の取組みを公開し、参加者から意見をいただいたり、一緒に教材研究をするなど、近隣の学校・教師と一緒に巻き込んだ取組みが大切である。 | | | |
| 第2回 | (主な報告・協議事項) | <ul style="list-style-type: none">・ 第1回協議会以降の事業の取組経過・ 今年度の研究のまとめ
(刊行物『確かな学力の向上』を目指して(仮題))について・ 次年度の事業の推進の方向性 (主な協議内容) <ul style="list-style-type: none">・ 実践研究の成果の普及に関しては次のような工夫を必要である。
<table border="1" data-bbox="430 1332 997 1444"><tr><td>初任者研修や11年次研修での資料活用</td></tr><tr><td>保護者と協同した取組みの推進</td></tr><tr><td>高等学校教育研究会との連携</td></tr></table> <ul style="list-style-type: none">・ 情報提供、フロンティアスクールの交流 | 初任者研修や11年次研修での資料活用 | 保護者と協同した取組みの推進 | 高等学校教育研究会との連携 |
| 初任者研修や11年次研修での資料活用 | | | | | |
| 保護者と協同した取組みの推進 | | | | | |
| 高等学校教育研究会との連携 | | | | | |

(3) フロンティアティーチャー研修会

フロンティアスクールの研究推進役であるフロンティアティーチャーを対象に県2回、各地区2回程度開催している。講演については、できる限り公開するように努めている。以下、県フロンティアティーチャー研修会の取組

- | | | |
|-----|----------------|---|
| 第1回 | 平成15年12月26日(金) | (主な内容) <ul style="list-style-type: none">・ 部会「学力の評価の取組」・ 講演「標準学力調査を利用した評価の仕方・活用」 |
|-----|----------------|---|

第2回 平成16年2月12日(木)

(主な内容)

- ・ 部会「研究成果のまとめ」
- ・ 講演「学力向上に果たす評価の役割」
公開講演会として実施

VI. 実施計画書において示した「事業評価の実施方法・内容」とその進捗状況

(事業評価の実施方法・内容)

1 基本方針

- ・ 評価のシステムを生かした実践研究を推進し、その取組みを評価する。
- ・ 評価の視点の事前提示

2 評価を行うための視点

(1) 指導計画の段階

- ・ 教育課程への位置付けがなされているか。
(創意工夫、研修体制、事業の趣旨の共通理解 など)
- ・ 3年間を見通した研究であるか。
(年度の重点が明確、年次計画への発展的な位置付け など)

(2) 実施(実践)の段階

- ・ 円滑に進み、効果をあげているか。
(子ども、教師、保護者、地域住民などからの継続的な評価の実施 など)
- ・ 効果的な取り組みであることが検証されているか。
(行動・態度・学力面など、成果の評価のみでなく、研究計画・方法等の観点を含み、小中教研の学力調査の活用 など)
- ・ 積極的に成果(経過)の普及に努めているか。(地区、他地区小中学校などへの授業公開、ホームページでの研究経過の紹介 など)

3 評価の活用

- (1) 改善すべき点を明確にし、その改善・修正を必ず行って実質的な成果をあげるための指導・助言に生かす。
- (2) 実施協議会、学力向上推進協議会への情報提供
- (3) フロンティアティーチャー研修会での協議

(進捗状況)

- ・ 数値化目標、成果指標を設定した取組を行う学校が着実に増えた。
- ・ 各フロンティアスクールでは、県が示す基本方針、評価を行うための視点を十分理解し、実践研究を行っている。
- ・ 年度末には、各フロンティアスクールが自己評価するとともに、県としても報告書などにより評価を行い、次年度への課題を整理することで、事業計画の一層の推進および改善を図りたい。

【地区別協議会における特色ある取組】

地区内の学校に対する支援策

地区協議会は、午前中がフロンティアスクールにおける学習参観、午後が講演会を行う等内容・日程を工夫することで、地区内の学校へ成果の普及を図っている。

(富山地区協議会、魚津地区協議会)

研究成果の普及の方策

校長研修会、教務主任研修会等で成果の普及を図っている。

(魚津地区協議会)